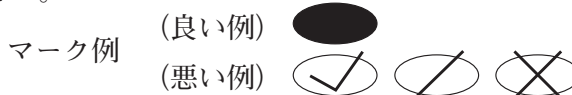


令和6年度（令和5年度実施）
 高知県公立学校教員採用候補者選考審査
 筆記審査（専門教養）
 中学校 高等学校 特別支援学校 中学部 高等部
 保健体育

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
 ○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○	○	○	○	○
●	○	○	○	○
○	●	○	○	○
○	○	●	○	○
○	○	○	●	○
○	○	○	○	●

記入例

(受審番号12345の場合)

- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。

- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の○(b)をマークしてください。

(例)

ア	a	●	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



【共通問題】

第1問 運動領域及び競技の用語に関して、次の1～7の問いに答えなさい。

- 1 次の表は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 A 体づくり運動 体づくり運動の行い方などの例「体ほぐしの運動」及び高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編「第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「体育」 3 内容 A 体づくり運動 体ほぐしの運動の行い方の例」として示されているものの一部である。表中の（①）～（④）に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ア

- ・（①）で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすること
- ・リズムに乗って（②）を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすること
- ・緊張したり緊張を解いて（③）を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすること
- ・（④）で、歩いたり走ったり飛び跳ねたりする運動を通して、気付いたり関わり合ったりすること
- ・(略)

- | | |
|---------------|--------------|
| a ① のびのびとした動作 | ② 全身で弾むような運動 |
| ③ 脱力したりする運動 | ④ 制限のある条件 |
| b ① 大きな動作 | ② 心が弾むような運動 |
| ③ ゆるめたりする運動 | ④ 制限のある条件 |
| c ① のびのびとした動作 | ② 心が弾むような運動 |
| ③ 脱力したりする運動 | ④ いろいろな条件 |
| d ① 大きな動作 | ② 全身で弾むような運動 |
| ③ 脱力したりする運動 | ④ いろいろな条件 |
| e ① のびのびとした動作 | ② 心が弾むような運動 |
| ③ ゆるめたりする運動 | ④ 制限のある条件 |

2 次の表は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 B 器械運動〔第3学年〕 マット運動の主な技の例示」及び高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 「第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容〔体育〕 3 内容 B 器械運動 マット運動の主な技の例」として示されているものである。表中の（①）～（④）に該当する技の名称の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

イ

系	技群	グループ	基本的な技 (主に中1・2で例示)	発展技
回転系	(①)	前転	開脚前転 → → (③) →	伸膝前転 跳び前転
		後転	開脚後転 →	伸膝後転 → 後転倒立
	(②)	倒立回転・ 倒立回転跳び	側方倒立回転 → 倒立ブリッジ →	側方倒立回転跳び1/4ひねり (ロンダート) 前方倒立回転 → 前方倒立回転跳び
		はねおき	頭はねおき	
巧技系	平均立ち 倒立	片足平均立ち	片足正面水平立ち →	片足側面水平立ち, Y字バランス
		倒立	倒立 →	(④)

- a ① 接転 ② ほん転 ③ 倒立前転 ④ 倒立歩行
- b ① ほん転 ② 接転 ③ ハンドスプリング ④ 倒立ひねり
- c ① 接転 ② ほん転 ③ ハンドスプリング ④ 倒立歩行
- d ① ほん転 ② 接転 ③ ハンドスプリング ④ 倒立歩行
- e ① 接転 ② ほん転 ③ 倒立前転 ④ 倒立ひねり

3 陸上競技の混成競技である女子7種競技において、全てが実施される競技種目である組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

a	100mハードル	走り高跳び	砲丸投げ	やり投げ	800m
b	100m	走り幅跳び	砲丸投げ	円盤投げ	1500m
c	200m	走り幅跳び	円盤投げ	やり投げ	400m
d	100mハードル	棒高跳び	円盤投げ	やり投げ	200m
e	110mハードル	走り高跳び	砲丸投げ	ハンマー投げ	800m

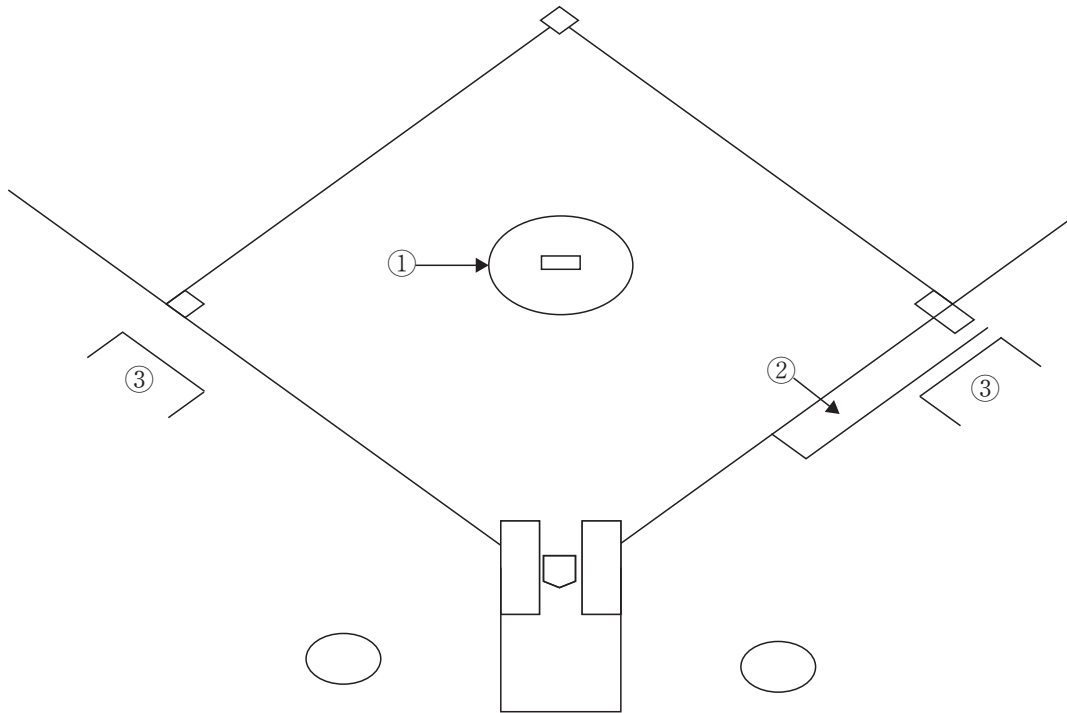
4 バスケットボールにおいて、「攻撃側のスクリーンプレイに対して、攻撃者と防御者の間をすり抜けて同じ相手の防御を続ける」戦術を何というか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a ポストプレイ
- b スイッチ (スイッチアップ)
- c フェイクング (フェイク)
- d スライドスルー
- e ゾーンディフェンス

5 バレーボールにおいて、「バック競技者の位置でしかプレーできず、サービスおよびスパイク・ブロックの試みをする事ができない」プレーヤーのことを何というか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a レシーバー
- b リベロ
- c セッター
- d アタッカー
- e ミドルブロッカー

6 次の図は、ソフトボールのコートを模式的に示したものである。図中の①～③に該当する名称の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。



- | | | |
|---|-----------------|---------------|
| a | ① ネクストバッターズサークル | ② ファーストフットレーン |
| | ③ コーチズボックス | |
| b | ① ピッチャーズサークル | ② ファーストフットレーン |
| | ③ コーチズボックス | |
| c | ① ネクストバッターズサークル | ② スリーフットレーン |
| | ③ キャッチャーズボックス | |
| d | ① ピッチャーズサークル | ② スリーフットレーン |
| | ③ コーチズボックス | |
| e | ① ネクストバッターズサークル | ② ファーストフットレーン |
| | ③ キャッチャーズボックス | |

7 相撲において、「手を清めて、正々堂々と武器を持たずに戦うことを示す、相撲固有の礼法」を何というか。次の a～e から一つ選びなさい。

- a 中腰の構え
- b 四股しこ
- c 調体 (てっぼう)
- d 運び足 (すり足)
- e 塵浄水ちりちようず

第2問 競技に関するルールについて、次の1～5の問いに答えなさい。(各競技種目の競技規則・ルールは令和5年5月1日現在のものとする。)

1 次の文は、体操競技「鉄棒」において、演技中に選手が落下した際のルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 器械からの落下についてはいかなる場合も0.50の減点を受ける。
- b 時間の計測は、基本的に選手が立った時点からであるが、立ち上がるのが遅い場合は選手自身の安全が確認できた時点で計測を開始する。
- c 落下の場合、演技再開までには30秒の時間が与えられる。
- d 落下の場合、演技の再開までに30秒を超えた場合、追加で0.30の減点となるが演技を続行できる。
- e 落下の場合、60秒を超えても演技を再開しなかった場合、演技終了とみなされる。

2 次の文は、サッカーにおいて反則したとき、フリーキックとなる場合について述べたものである。①・②とも間接フリーキックとなる組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a ① 相手を蹴る、または蹴ろうとする。
② オフサイドが宣告されたとき。
- b ① ボールを手や腕で扱う。
② ボールをプレーせずに故意に相手の進路を妨害したとき。
- c ① 相手を押す。
② ボールを手や腕で扱う。
- d ① オフサイドが宣告されたとき。
② ボールをプレーせずに故意に相手の進路を妨害したとき。
- e ① 相手を蹴る、または蹴ろうとする。
② 相手を押す。

3 ラグビーにおける得点方法とその得点の正しい組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a トライ……………7点
- b ペナルティキックのゴール……3点
- c コンバージョンゴール……………3点
- d ペナルティトライ……………5点
- e ドロップキックのゴール……………2点

4 次の文は、バドミントンのダブルスのルールについて述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a 特に定めがなければ21点3ゲームで行い、2ゲーム先取で勝者となる。
- b ダブルスのサービスコートはシングルのサービスコートと同じである。
- c サーバーに対して、斜めに向かい合ったレシービングサイドのプレーヤーがレシーバーとなる。
- d サービングサイドのスコアが、0か偶数のとき、右サービスコートからサービスを行う。
- e サービングサイドが得点した時は、そのサーバーが再びもう一方のサービスコートからサービスを行う。

5 次の文は、剣道において有効打突になる場合とならない場合について述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a 場外に出ると同時に加えた打突は、有効打突になる。
- b 倒れた者にただちに加えた打突は、有効打突になる。
- c 竹刀を落とした者にただちに加えた打突は、有効打突にならない。
- d 有効打突が両者同時にあった場合（相打ちの場合）、有効打突にならない。
- e 被打突者の剣先が相手の上体前面についてその氣勢、姿勢が充実していると判断した場合は有効打突にならない。

第3問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 運動の技能のポイントについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。なお、a～eの順に一連の動きを行うものとする。

(1) 次の文は、鉄棒運動における「け上がり」の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 両腕を伸ばして、リラックスして前振りを行う。
- b 振れ戻りに合わせて足を鉄棒に引き寄せる。
- c 両足を勢いよく蹴り上げ、鉄棒に沿いながら腰を伸ばしていく。
- d 腰を伸ばしながら、腰を鉄棒から遠ざける。
- e 腰の伸ばしにブレーキをかけるため、手首を返して鉄棒を引き寄せる。

(2) 次の文は、水泳の「背泳ぎ」の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 手先から足先までのストリームライン姿勢をしっかり意識する。
- b エントリーからキャッチでは、親指側から入水した後、手首を返して水をつかむ。
- c キャッチからプッシュオフまでは、手のひらを足の方に向け、水をしっかり押す。
- d プッシュオフはももの所までかき、リカバリー動作に入る。
- e リカバリーでは、腕を空中に高く伸ばす。

(3) 次の文は、ハンドボールの「ステップシュート」(右利き)の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 体を横に向けバックスイングしながらクロスステップする。
- b 右足に体重を乗せ、肘を上げボールを後方に引く。
- c バックスイングを大きくとり、身体を弓なりに反らせる。
- d 全身をひねり戻しながら腕を振り下ろす。
- e 右足に体重を乗せ、指先でボールに勢いを伝える。

(4) 次の文は、卓球の「バックハンドドライブ」の技能ポイントについて述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a 肘を前に突き出し、ボールを引き付ける。
- b 両肩の線は床とほぼ平行にする。
- c 手首のスナップと腕全体でスイングする。
- d ラケット面をかぶせてボールをたたきつけるように打つ。
- e ボールに強い上回転を与えて返球する。

2 体育理論について、次の (1)～(4) の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、運動やスポーツへの多様な関わり方について、述べたものである。①・②に該当する語句の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

「運動やスポーツを (①)」…競技場やテレビ、インターネットや新聞などで運動やスポーツを応援・観戦すること。

「運動やスポーツを (②)」…保健体育の授業で仲間にアドバイスをしたり、大会や競技会の企画をしたりすること。

- a ① 知る ② する
- b ① みる ② する
- c ① する ② 知る
- d ① 知る ② 支える
- e ① みる ② 支える

(2) 次の文は、スポーツにおける技術と戦術などについて述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a 課題を解決するための合理的な体の動かし方を技能という。
- b 集団にかかわる部分的な連携的行動の仕方をグループ戦術という。
- c 個人にかかわる行動の仕方を個人戦術という。
- d 実際のゲームに先立って、どのような戦術を適用するのかあらかじめ立てておく計画を作戦という。
- e 長期的な見通しのもとで、練習内容、スケジュール、選手の起用の仕方などを決定するための方針を戦略という。

- (3) 次の文は、スポーツライフスタイルのタイプを説明した文である。①～③に該当する語句の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。 キ

- (①) 型：数日間の休暇を利用して、スポーツのイベントに参加するタイプ。
 (②) 型：個人で自由に時間やプログラムを設定し、自分のペースで活動するタイプ。
 (③) 型：クラブに所属して、定期的にスポーツ活動を行うタイプ。

- | | | | |
|---|-------------|-------------|-------------|
| a | ① イベントツーリズム | ② リゾートツーリズム | ③ スポーツクラブ中心 |
| b | ① スポーツ教室 | ② 近隣施設利用 | ③ レジャースポーツ |
| c | ① イベントツーリズム | ② 近隣施設利用 | ③ スポーツクラブ中心 |
| d | ① スポーツ教室 | ② リゾートツーリズム | ③ スポーツクラブ中心 |
| e | ① イベントツーリズム | ② 近隣施設利用 | ③ レジャースポーツ |

- (4) 次の文は、スポーツの歴史的発展と多様な変化について述べたものである。内容として正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。 ク

- a スポーツは、民族や国、人種や性別、障害の有無、年齢、地域、風土などの違いをこえて人々を結びつける文化的なはたらきを持っている。
- b スポーツは、歴史的、科学的、社会的価値などの価値を持ち、世界共通の文化として発展し続けている。
- c 年齢や性別、障害の有無などの違いをこえて、誰もが参加できるようにルールを変更したり、新たにつくられたりした運動やスポーツ、レクリエーション全般のことをアダプテッド・スポーツという。
- d 障害者スポーツでは、障害の軽度の選手も重度の選手も平等に競技を実施できるように、「クラス分け」がおこなわれる。
- e 障害者スポーツの国際総合競技大会は、パラリンピックに加えて、聴覚障害者のみを対象としたスペシャルオリンピックがある。

第4問 保健について、次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の文は、心肺蘇生法について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- ① 急な病気やけがで倒れている人を見つけたら、すぐに駆け寄り、傷病者の反応を確認する。
- ② 傷病者の呼吸は、胸と腹の動きの観察を通して普段通りの呼吸があるか確認する。確認は30秒程度で行う。
- ③ しゃくり上げるような途切れ途切れの呼吸を死戦期呼吸と呼び、直ちに胸骨圧迫を開始してよい。
- ④ 胸骨圧迫を行う際は、胸が約5cm沈むように胸骨の上半分を圧迫する。1分間に100～120回の速さで行う。
- ⑤ 胸骨圧迫と人工呼吸を行う際は、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを繰り返す。

a ①・③ b ②・④ c ③・⑤ d ①・② e ④・⑤

2 次の文は、喫煙と健康について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- ① たばこを吸うと、毛細血管が収縮する。
- ② たばこを吸うと、血圧が低下する。
- ③ たばこの煙に含まれる有害物質は、主流煙よりも副流煙に多く含まれている。
- ④ たばこの煙に含まれるタールには依存性がある。
- ⑤ 日本では環境基本法により、受動喫煙防止のための対策が義務付けられている。

a ①・④ b ①・③ c ②・③ d ②・⑤ e ③・④

- 3 次の表は、精神疾患の症状について示したものである。表中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の正しい組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 ウ

(①)	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が沈み，憂うつな気持ちが続く。 ・不安や焦り，イライラが強まる。意欲が低下する。 ・不眠または過眠，体重減少など。
(②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ (③)：実在しない声がありありと聴こえる。 ・ (④)：現実にはないことを強く信じたり，他人の行動の意図を誤って受け取る。 ・感情表現の幅が狭くなったり，自発的な行動が減り，引きこもるなど。
不安症	(⑤)：動悸，発汗，震え，息苦しきなどの発作が起こり，「そのような発作がまた起きたらどうしよう」という不安や，発作が起きると困る特定の場面を避ける。

- a ① 摂食障害 ② 強迫性障害 ③ 妄想 ④ パーキンソン症状
⑤ パニック症
- b ① うつ病 ② 強迫性障害 ③ 幻聴 ④ 妄想
⑤ パニック症
- c ① うつ病 ② 統合失調症 ③ 妄想 ④ パーキンソン症状
⑤ 依存症
- d ① 摂食障害 ② 強迫性障害 ③ 妄想 ④ パーキンソン症状
⑤ 依存症
- e ① うつ病 ② 統合失調症 ③ 幻聴 ④ 妄想
⑤ パニック症

- 4 次の文は、厚生労働省が示している「健康づくりのための睡眠指針」(2014) 睡眠12箇条の一部である。正しくないものの個数を、下の a ~ e から一つ選びなさい。

エ

- ① 適度な運動，しっかり朝食，ねむりとめざめのメリハリを。
- ② 良い睡眠は，生活習慣病予防につながります。
- ③ 睡眠による休養感は，こころの健康に重要です。
- ④ 若年世代は夜更かし避けて，体内時計のリズムを保つ。
- ⑤ 勤労世代は朝晩メリハリ，ひるまに適度な運動で良い睡眠。

- a 1個 b 2個 c 3個 d 4個 e 5個

5 次の文は、身体活動・運動と健康について述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 身体活動は、身体を動かすことで安静時よりも多くのエネルギーを消費するすべての身体動作を指す。身体活動量は、身体活動の強度（メッツ）と活動時間の積で定量化される。
- b 身体活動量が不足していると、体力の低下だけでなく、がんや骨粗しょう症を含めた生活習慣病の原因になる。
- c WHOは、中強度の身体活動を週150分以上行っていない状態を身体不活動と定義している。日本におけるリスク要因別の死亡者数を見ると、身体不活動は、喫煙、高血圧に次ぐ第3位（2012年）である。
- d 厚生労働省が示している「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」（2013）によれば、18歳～64歳の身体活動の目標は1日90分である。また、65歳以上は1日60分体を動かすことが目標に掲げられている。
- e 強度の高い競技・スポーツ活動においては、思わぬ事故やけがのみならず、スポーツ障害にも注意が必要である。

【選択問題 中学校】

第5問 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）「第2章 各教科 第7節 保健体育」について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第1 目標」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、 を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) (略)

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に 力を養う。

- a 環境と安全 b 身体と精神 c 個人と社会 d 見方と考え方
e 心と体

- a 聞く b 伝える c 教える d 気遣う e 援助する

- 2 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔体育分野 第1学年及び第2学年〕 2 内容 A 体づくり運動」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。

ア (略)

- イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。

- a 本質 b 目的 c 意義 d 内容 e 構成

- a すばやい動き b 正確な動き c 伸び伸びとした動き
d 力強い動き e 大きな動き

- 3 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔体育分野 第3学年〕 2 内容 C 陸上競技」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。

ア (略) 長距離走では、 走ること、(略)

イ (略) 走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り 空間動作で跳ぶこと。

- a ほど良いペースを維持して
- b ペースを守って
- c 一定のペースを守って
- d ペースの変化に対応して
- e 自己に適したペースを維持して

- a 滑らかな
- b 力強い
- c バランスの良い
- d 大きな
- e コンパクトな

4 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔保健分野〕 2 内容」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(4) 健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで があること。(略)

(イ) は、健康と密接な関わりがあること。また、 を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) (略)

- a 適応能力 b 防衛能力 c 対応能力 d 免疫能力 e 生存能力

- a 温度や湿度 b 自然環境 c 森や川 d 生活環境
e 飲料水や空気

- 5 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1)～(4) (略)

(5) 生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教師間の協力的な指導などを工夫改善し、 指導の充実が図られるよう留意すること。

(6) (略) 学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、 活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。(略)

a 個別 b 生徒 c 習熟度別 d 生活 e 個に応じた

a 部 b 地域スポーツクラブの c クラブ d 運動部の e 課外

【選択問題 高等学校】

第5問 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）「第2章 各学科に共通する各教科
第6節 保健体育」について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第1款 目標」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、 を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) (略)
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に 力を養う。

- a 個人と社会 b 環境と安全 c 心と体 d 身体と精神
e 見方と考え方

- a 教える b 援助する c 聞く d 気遣う e 伝える

- 2 次の文は、「第2款 各科目 第1 体育 2 内容 A 体づくり運動」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、 への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、 に役立てること。

ア (略)

- イ に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や 体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むこと。

- a 体力トレーニング b スポーツ c 技術トレーニング d 実生活
e 学習過程

- a 行動 b 調和のとれた c バランスのとれた d 均整のとれた
e 防衛

- 3 次の文は、「第2款 各科目 第1 体育 2 内容 C 陸上競技」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。

ア (略) 長距離走では、 走ること、(略)

イ (略) 走り高跳びでは、スピードのあるリズムカルな助走から力強く踏み切り、 空間動作で跳ぶこと、(略)

- a ペースを守って b 自己に適したペースを維持して
c ほど良いペースを維持して d ペースの変化に対応して
e 一定のペースを守って

- a 滑らかな b 力強い c バランスの良い d 大きな
e コンパクトな

- 4 次の文は、「第2款 各科目 第2 保健 2 内容」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(4) 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。

(ア) 環境と健康

人間の生活や産業活動は、 を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。(略)

(イ) と健康

の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。(略)

(ウ)～(オ) (略)

- a 生活環境 b 地域の環境 c 地球環境 d 河川の環境
e 自然環境

- a 医薬品 b 保健・医療制度 c 食品 d 生活環境
e 労働環境

5 次の文は、「第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) ～ (3) (略)

(4) 「体育」におけるスポーツとの多様な関わり方や「保健」の指導については、 を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。

(5) 「体育」と「保健」で示された内容については、相互の関連が図られるよう、それぞれの内容を適切に指導した上で、学習成果の関連が よう留意すること。

- a 成就感 b 具体的な体験 c 達成感 d 汎用的な経験
e 楽しさ

- a 図られる b 可視化される c 理解できる d 図式化される
e 実感できる

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の表は、令和4年12月13日に文部科学省により示された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に関するものである。

(1) 小学校・中学校の「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合として、に当てはまる正しい数値を、下のa～eから一つ選びなさい。

<小学校・中学校>

	推定値
学習面又は行動面で著しい困難を示す	<input type="text" value="ア"/> %

a 4.6 b 6.5 c 7.3 d 8.8 e 10.3

(2) 学校種別ごとの「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合として、～に当てはまる正しい数値を、下のa～eから一つ選びなさい。

	推定値			
	学習面又は行動面で著しい困難を示す	A	B	C
小学校	<input type="text" value="イ"/> %	7.8%	4.7%	2.0%
中学校	<input type="text" value="ウ"/> %	3.7%	2.6%	1.1%
高等学校	<input type="text" value="エ"/> %	1.3%	1.0%	0.5%

※ A：「学習面で著しい困難を示す」、B：「不注意」又は「多動性－衝動性」の問題を著しく示す、C：「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す」

a 0.9 b 2.2 c 5.6 d 8.2 e 10.4

- 2 次の文は、令和5年3月に文部科学省より示された「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について（通知）」の一部である。文中の ～ に当てはまる語句を、下の a～d からそれぞれ一つ選びなさい。

この度、文部科学省の下に設置された「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」において、令和5年3月13日に報告が取りまとめられました。

(中略)

具体的には、

- ・校長のリーダーシップの下、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態を適切に把握し、適切な指導や必要な支援を組織的に行うための を充実させること
- ・児童生徒が慣れた環境で安心して通級による指導を受けられるように や巡回指導をはじめとする通級による指導を充実させること
- ・通級による指導を担当する教師等の専門性の向上を図ること
- ・高等学校における通級による指導の実施体制を充実させること
- ・特別支援教育に関する専門的な知見や経験等を有する特別支援学校における小中高等学校等への指導助言等の を充実させること
- ・よりインクルーシブで多様な教育的ニーズに柔軟に対応するため、特別支援学校を含めた2校以上の学校を一体的に運営するインクルーシブな学校運営モデルを創設すること

などについて提言されています。

- | | |
|-----------|-----------------|
| a 多様な学びの場 | b カリキュラム・マネジメント |
| c 学校運営協議会 | d 校内支援体制 |

- | | |
|-----------|--------|
| a グループ別指導 | b 自校通級 |
| c 他校通級 | d 個別指導 |

- | | |
|-------------|-----------|
| a カウンセリング機能 | b 一貫した支援 |
| c 継続的な支援 | d センターの機能 |

- 3 次の文は、特別支援学校学習指導要領解説（平成30年3月）各教科等編（小学部・中学部）第4章 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科 第2節 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における指導の特徴について 3 指導の形態についての記述の一部である。文中の ～ に該当する語句を、下の a～d からそれぞれ一つ選びなさい。

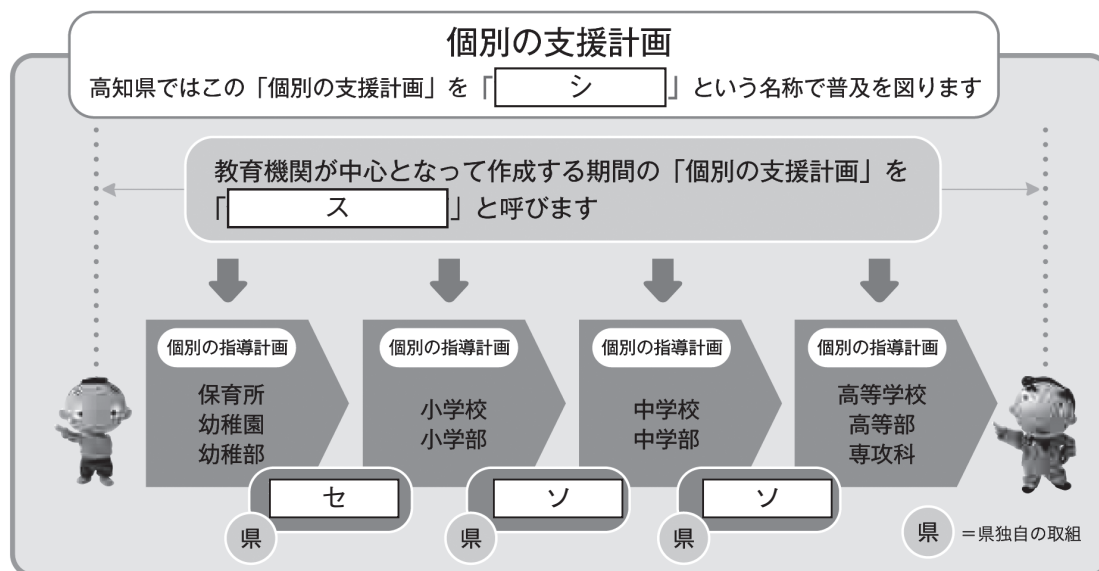
知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、児童生徒の学校での生活を基盤として、 の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、従前から、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などとして実践されてきており、それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれている。

各教科等を合わせて指導を行うことに係る法的な根拠は、 第130条第2項に、特別支援学校において「知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳科、 、特別活動及び自立活動の について、合わせて授業を行うことができる」とされていることである。

- | | | | |
|---|-------------|----------|-------------|
| ク | a 発達や指導 | b 興味や関心 | c 学習や生活 |
| | d 指導計画や内容 | | |
| ケ | a 教育基本法 | b 地方公務員法 | c 学校教育法施行令 |
| | d 学校教育法施行規則 | | |
| コ | a 外国語活動 | b 学級活動 | c 総合的な学習の時間 |
| | d 総合的な探究の時間 | | |
| サ | a 全部又は一部 | b 全部 | c 一部 |
| | d 特に示す部分 | | |

- 4 高知県教育委員会で作成した「高知県の特別支援教育 すべての子どもが輝くために」では、特別な支援を必要とする子どもたちへの切れ目のない支援を実現する仕組みとして次の図を示している。

図中の ～ に当てはまる語句を、下の1～7から一つずつ選びなさい。



- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1 個別の教育支援計画 | 2 個別の移行支援計画 | 3 アセスメントシート |
| 4 つながるノート | 5 就学時引き継ぎシート | 6 キャリア・パスポート |
| 7 支援引き継ぎシート | | |



